



勿来発電所では、地球温暖化対策である低炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーである炭化燃料や木質バイオマス燃料を使用した発電への取り組みを目指しています。

バイオマス燃料は、燃焼による二酸化炭素排出量がゼロとみなされることから、二酸化炭素低減に寄与するものです。

(1) 炭化燃料

平成19年10月より、東京都の下水汚泥から製造される炭化燃料を使用し、平成20年4月より、本格運用を開始しています。

この燃料は、石炭の性状とほぼ同じであり、石炭と混合して燃焼しています。

なお、震災以降、炭化燃料の受入は中断しております。



炭化燃料設備



炭化燃料

(3) 木質バイオマス燃料

平成23年3月より、発電用燃料として木質バイオマス燃料（木質ペレット）を導入し、炭化燃料と同様に石炭と混合して燃焼しています。

木質バイオマス燃料は、製品として使われない残材を加工成形した固形燃料です。

平成28年度は、86,466t を使用しました。



木質バイオマス燃料設備



木質ペレット

(2) 太陽光発電設備

平成21年6月より、発電所サービスビルに太陽光発電設備を設置し、運用しています。

ビルの南側壁面に太陽光モジュールを56枚設置し、総出力は10kWで、ビルの電源の一部として使用しています。



勿来発電所サービスビル太陽光発電設備

